

# もみじ

—広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報—



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: [hgakuren@lime.ocn.ne.jp](mailto:hgakuren@lime.ocn.ne.jp)

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 岳連例会山行 (11/20 勝成山・鷹巣山、11/30 高見山・船倉山、12/4 極楽寺山) 報告
2. 登山教室 (2 年 12/7~8 大山、1 年 12/15 恐羅漢山、岩稜クラス 12/15 陀峯山) 報告
3. 県民ハイキング (12/8 大江の貝殻塚と周辺) 報告
4. チャレンジクライミング (12/15 Switch Climbing Gym) 報告
5. 岳連忘年会・萬行さん送別会 (12/19 岳連事務所) 報告
6. 全国高校選抜スポーツクライミング選手権 (12/21~22 埼玉県加須市) 報告
7. 新連載『「幸せの国」ブータン王国滞在記もろもろ』
8. 岳連短信 (寄贈御礼、1~2 月の行事案内)

## 1. 岳連例会山行報告

(副会長 後藤 裕司)

廿日市 20 名山シリーズ 11 月例会 20 日 (水) 晴れ

上勝成山 684m・下勝成山 652m・鷹巣山 613m

JR 宮内串戸駅北口集合。8:30 発のバスで津田方面へ浜本工芸前下車。一行 12 名。

まず南方の上勝成山へと S さんの案内で進む。途中から頂上に突き上げる尾根道を登る。やや急だがシロモジの黄葉で明るく気持ちがいい。ほどなくアンテナ設備のある山頂へ。小休止のあと車道を西の下勝成へ向かう。車道と別れて下勝成への立派な遊歩道を進む。ドウダンツツジが目を楽しませてくれる。下勝成山頂から上勝成山に戻って昼食。

登ってきた道を下る。県道に降りて、佐伯中学校入口からは北側の佐伯総合スポーツ公園に登っていく。

鷹巣山へは C コースとある谷筋から進む。貯水地をすぎてもやや急な登りを抜けると、山頂まで穏やかな尾根道が続く。下りは途中から東にのびる尾根にコースをとってスポーツ公園に帰着。

天気にも恵まれて、爽快な山行となりました。

30 日 (土) 晴れ

高見山 559m 船倉山 546m (烏帽子山 631m)

宮島口フェリー前バス停集合。おおのハートバス 8:56 発に乗車して前空台入口下車。一行 12 名。

高見川沿いの車道を上がる。大昔、県岳連で押しかけて、高見川とその支流などを登った記憶があるが、堰堤がたくさん築かれたので、今は登る対象で無くなった。本谷と別れて支尾根から支谷を越す所に小さな坑道が開いている。急な斜面を尾根に登ると、最初の送電線の鉄塔近くに着く。ここからの眺めはいつもの疲れを癒してくれる。高見山山頂までは 2 番目の鉄塔からは意外と長い急登に汗をかく。

次の船倉山へは尾根上を縦走するのだが、中間のピークを北へ巻道を進むと林道に突き当たり、間違いに気づいて引き返す。ここは愚直にピークを越して西へ下るのが正解。先を急ぎたいのに、皆さんに無駄な時間と体力を使わせてしまった。小さな沢を渡って尾根に登り返すと船倉山頂。昼食とする。

ここからは、尾根上を反時計回りに北方の烏帽子山を目指す。道は狭く、眺望は望めない。先頭でとっと進んだら後ろが離れた。やむなくペースを落とす。大きな高低差はないが、長い。道の右側に有刺鉄線の張られた場所もある。PP のテープは目障りだが、助けになる。足がつる方もいたので、休み休みの歩きにな

ったが、やがてこの日の最高点となる烏帽子山に着く。

烏帽子岩経由での下山は前回イバラの藪こぎになってしまったので、この先の峠からの下山に変更する。おかげで上峠バス停 15 時 08 発に間に合った。

長いコースですが、大野権現山からぐるりと続く尾根道を歩き通すことができました。

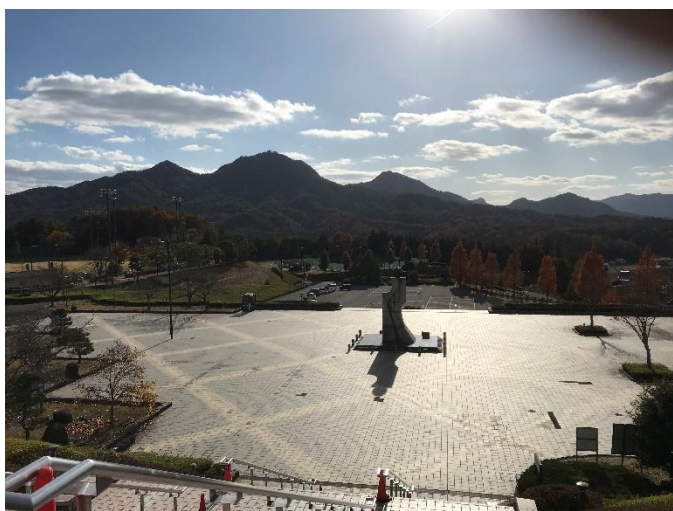
## 12 月例会 4 日 (水) 晴れ 極楽寺山 693m

広電楽々園駅集合。工大上までのバスもあるが、歩くことにする。一行 11 名。

山陽自動車道の上の登山口までは、広工大キャンパス横とゴルフ場の横を登る長い道のり。三宅ルートは急だけど一番早いとのこと。平日なのに早くも下ってくる方が数名。大抵は同行の N さんの顔見知り。N さん、極楽寺山は 2,000 回を越しているそうです。途中で麓の店に電話して、ランチを予約する。12 時には来られませんかとのこと。

極楽寺から山頂に着いてすぐ戻る。極楽寺でランチには行かない二人とはお別れ。平良への下りは緩やかだけど長い。N さんのペースではなかなか皆さん歩けない。2 号バイパス沿いのビューフェには 12 時 20 分頃到着。店内は賑わっていて、空き席を待つ人も数名。我々の席はちゃんと確保してあった。

ランチに間に合うよう、足早の山歩きでしたが、参加の皆様、満足でしたでしょうか？



11/20 佐伯総合スポーツ公園から見た上勝成山・下勝成山

## 2. 登山教室報告

(指導部長 森本 覚)

### 第 9 回 2 年生 12/7(土)~8(日)

登山形態：雪山訓練

山城：大山

人数：10 名 (スタッフ含)

今回の 2 年生は雪山訓練で大山に行ってきました。2 月の山行にむけて歩行とロープワークの訓練を行いました。(森本)

『12 月の山行を終えて』

(登山教室 2 年 堀田 豪紀)

山行数日前からの冷え込みでこの時期にしては大山に積雪があったことが嬉しかったです。去年は暖冬で例年以上に積雪が少なく思ったような雪山トレーニングができなかったため、今年は少し期待しています。

今年は大山の 6 合目避難小屋及び山頂避難小屋が改修工事を行っているため、例年は山頂避難小屋で宿泊していましたが、今年は元谷避難小屋で宿泊することになりました。そのため 1 日目に山頂まで登り元谷まで降りて来なければいけないので、元谷避難小屋に宿泊装備を置いて登って良いことになりました。しかし、私は、何度か雪山の大山夏道登山道を登っていること、また、積雪も少なく雪が柔らかそうであったことから、テント泊の装備を担いで登り負荷をかけることにしました。

テント泊装備を担いでの登りはまだよかったです。下りでは少し足元を滑らせるとバランスを崩してしまうことから慎重に下る練習になりました。

また、今回は雪山山行に向けてロープワークの講習が多くよい勉強になりました。

ツェルトの張り方はもちろんですが、滑車の原理を使った引き上げシステムは実践的でとても興味ある内容でした。理論上では 3 分の 1 の荷重になるシステムでも実際にやってみるとカラビナとロープの摩擦で思った以上に負荷がかかることも体験できてよい経験になりました。今回はスタッフの方々にシステムを作ってもらい受講生はロープを引くだけでしたが、自分でもシステムを作れるようにしっかり復習しておこうと思います。



(写真提供 久保田)

**第 9 回 1 年生 12/15(日)****登山形態：日帰り山行****山城：恐羅漢山 人数：8 名 (スタッフ含)**

今回の 1 年生は雪が踏めればと思い恐羅漢山に行きました。残念ながらほとんど雪がありませんでしたが、ワカンの装着などを練習しました。(森本)

『12 月の山行を終えて』

(登山教室 1 年 池田 敦)

12 月の教室の山行は、雪山登山です。12 月に入って寒波が到来し、雪を踏みながら山に登れると期待を膨らませて、ワカンやストックを買いに回っていたところ、冬なのに汗ばむ陽気になっているではありませんか。それでも恐羅漢山頂には雪があるかもしれないとほんの僅かな希望を胸に抱いていましたが、集合の横川で聞く話は恐羅漢でも雪はないだろうというものでした。

案の定、雪は日陰に薄っすらと張り付いているだけでした。でも、全く雪のない登山道を歩くとはいえ、凍った登山道は初めての経験で私なりに来た甲斐がありました。

そして恐羅漢山頂に着くわけですが、そこで待っていたものは、雪ではなく、我々 1 年生が聞いている伝説の登山教室の卒業生で、甘酒と焼き餅などをテーブ

ルに用意されて待っていました。冬山テント泊装備で教室全員のビールを歩荷したという逸話が残っています。自分が山行についてゆけるどうか心配している者とはレベルもラベルも違います。

10 月の山行でも、卒業生がサポートに回っていただき、心強く山歩きができたことがありました。教室に入って 9 か月、2 年生との交流や OB の方々との繋がりには、自分もしっかりとした一員になればと思った次第です。

山頂を後にして日陰に雪溜まりでもないかと台所原に向いましたが、雪は薄っすらしかなく、土の上でのワカン装着やロープワークなどを 3 時間みっちり行うことができました。

ただロープワークは、その時できたと思っても身体で覚え込ませておかないといけないことが身にしました。今は、出張中のホテルでもロープワークができるようカバンに細引とカラビナを入れております。

1 月の山行では腰まである雪があることを心から願っております。



(写真提供 森本)

## 第5回岩稜クラス 12/15(日)

登山形態：岩稜歩き

山城：陀峯山

人数：7名 (スタッフ含)

天気がよく、気持ちよく岩稜登りができてよかったです。スラブ登り、フィックスロープの通過、ラップル、ボルトルート of のトラバース等々いろんなタイプの岩稜を体験することで、安全登山につながればと思っています。(指導部 久保田 征治)

## 『感想文』

(登山教室岩稜クラス 山奥 隆史)

5回目の岩稜クラスは江田島の陀峯山・羅漢石で行いました。

天気は快晴でしたが、風が強く日陰で待機しているときはとても寒かったです。

陀峯山は風化したもろい花崗岩の岩山でとても崩れやすく、足場や持ち手も不明瞭で登りはじめの取っ掛かりをつかむのが難しく、また谷に向けて切れ落ちているので恐怖感もありました。

ルートは羅漢石の第1峰から第7峰までをロープワークを行い登攀しました。

ロープワークは今までの講習どおり、セカンドビレイでスラブ登り、フィックスをフリクションノットで通過、懸垂下降、セカンドビレイでボルトルート of のトラバース等おこないましたが、通過に時間がかかってしまいました。まだまだ恐怖心が強く、下手なせいもありますが、ロープワーク自体は、一つ一つの動作を素早く行い、次の行動を予測して事前に準備しておき、時間のロスがないようにすることが重要だと思いました。

早いもので次回が岩稜クラスの最終回となります。復習をしっかりとって挑みたいと思います。



(写真提供 久保田)

## 3. 県民ハイキング報告

(宮島太郎の会 中塩 真悟)

12月8日(日) 大江の貝殻塚と周辺

担当：宮島太郎の会

参加者：一般7・担当団体22・会員15・計44人

概要 8:45 宮島栈橋前広場集合～要害山～多宝塔～聚景荘横の広場～大元公園～室浜砲台跡～大江浦～大江の貝殻塚～室浜砲台跡・解散 14:25～30

『県民ハイキングに参加して』(中塩)

今回の目的地の「大江の貝殻塚」は、江戸時代に記された芸藩通史によると、「貝殻塚 大江浦、浜辺より13町許(約2Km)の山間に、2丈(約6m)余の石窟あり、その下貝殻多く、弘治中、陶が残卒ここにしのびいたりしなり」と言い伝えあり」とあります。宮島町の地図には、大江山の中腹に貝殻塚と記載された箇所があります。

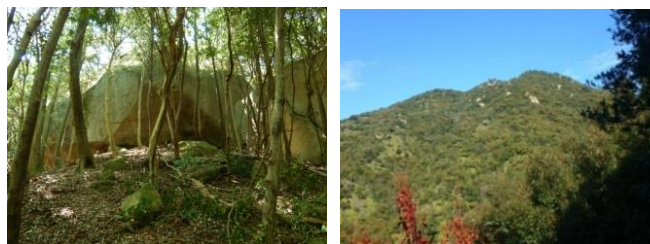
開会式後、まずは宮島の四つある三角点の一つがある要害山へ。ここで毛利軍と陶軍の厳島合戦の再現説明！その後、多宝塔、聚景荘横の広場、大元公園でも話を聞き、参加者の皆様には戦いの様子が理解できたのでは。

その後は植物観察道路歩きで室浜砲台跡へ。ここでも日露戦争の歴史解説を聞きます。11時前に室浜砲台跡から海岸沿いの山道を歩きますが、美しい海と海岸に魅せられた人も多いのでは。11時30分大江浦に到着。ここでゆっくりランチ、集合写真撮影、そして「山の服装」のワンポイントレッスン、勉強になります。

12時30分過ぎに大江浦を出発、13時過ぎに本日の一番の急登を上り大江の貝殻塚に到着です。大きな岩場

の下に陶軍の残卒が貝を食べながら身を潜めていたのかと歴史を思い浮かべながら、三丸子山や大江山の眺望も楽しめます。ここでも集合写真を撮ってから室浜砲台跡へと歩いてきた道に戻ります。14時25分、全員無事に到着、閉会式を行い解散です。

宮島の歴史や、普段歩くことがないであろう海岸沿いの山道歩き、そして貝殻塚と充分宮島を楽しめた一日となりました。



大江の貝殻塚と三丸子山

#### 4. チャレンジクライミング報告

(競技部長 錦織 宏美)

選手発掘等を目的に県の補助事業として、昨年度から、県内3箇所のジムに協力していただき、3回実施している「チャレンジクライミング広島」。今年度の第2回目は12/15(日)に昨年度も協力していただいた佐伯区のクライミングジム(Switch)で実施。選手30名を3カテゴリーに分けて、競技(コンテスト方式)により、実競技を体験した。

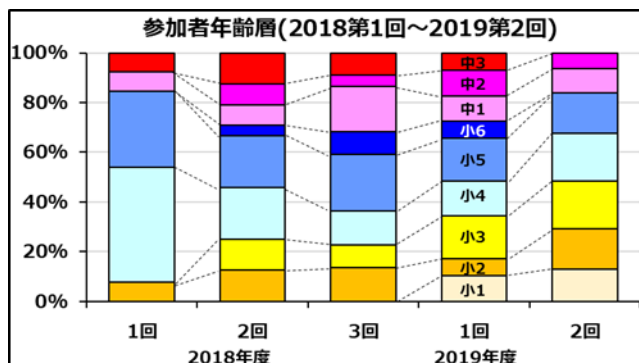
昨年度から今回までの参加者累計は118名。リピーター率は40%程度ではあるものの、年齢層は幅広となっている。

保護者も含め競技へ興味を持ってもらい、この中から将来の国体選手を目指す子が出てきてくれることを期待したい。



参加者と会長

参加者データ



要害山・大元公園で宮島合戦の再現説明



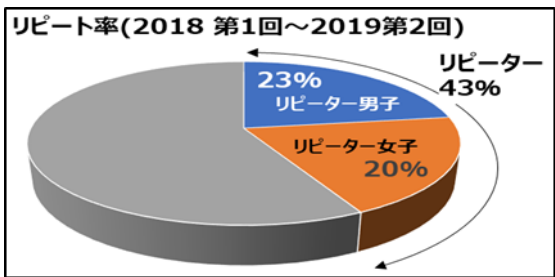
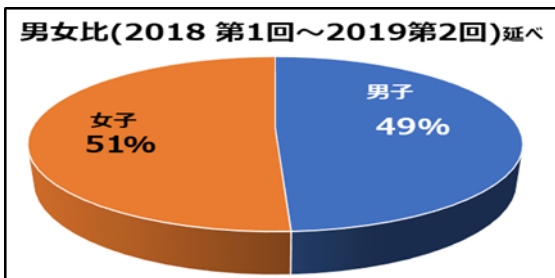
神秘的な宮島の海岸沿いとワンポイントレッスン



大江浦で集合写真



大江の貝殻塚で集合写真



### 5. 岳連忘年会・萬行さん送別会報告

(西部)

12/19(木) 晩、岳連事務所で毎年恒例の広島県山岳・スポーツクライミング連盟忘年会が開催され 18 人が参加しました。

このたびは、10 年の長きにわたって事務局スタッフとして連盟に貢献頂いた萬行さんの送別会も兼ねていました。萬行さん、長年ご苦勞様でした！

岳連忘年会はおでん食べ放題・お酒飲み放題で会費が 1,000 円と安上がりなのが嬉しい会ですが、松島さん、おでんの準備ありがとうございました。その他の皆さんもお酒の差し入れありがとうございました。



おでんを囲みながら乾杯、萬行さんへ花束贈呈

### 6. 全国高校選抜スポーツクライミング選手権報告

(競技部 延近 昌彦)

12/21～22 第 10 回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会が埼玉県加須市民体育館で開催され、広島県からは岡崎遥 (広島国際学院 3 年)、石井杏奈 (英数学館 1 年)、升田葉 (廿日市 1 年)、延近陸空斗 (福山葦陽 1 年) の各選手が出場しました。

成績は以下の通りで、今年は準決勝 (26 位まで) に 1 名進出する事が出来ました。残念ながら決勝にはいきませんでした。力強い登りで準決勝 19 位と健闘しました。

各選手も今大会が最後、又は初めての事もあり、思いのこもった良い登りを見せてくれました。

#### 広島県選手成績

女子 (103 名出場) 岡崎 (34 位)、石井 (45 位)  
男子 (109 名出場) 延近 (予選 16 位・準決勝 19 位)  
升田 (61 位)



開会式



競技を終えた広島県出場選手



会場の壁と広島県各選手の登り

### 7. 「幸せの国」ブータン王国滞在記もろもろ

(副会長 亀井 且博)

—その1—絶対ブータンに行ってやる!

2015年1月から2017年1月までの2年間、長年の憧れの地ブータン王国の首都ティンブー市に住み、ブータン政府保健省で JICA の SV (シニア海外ボランティア) として活動した。その滞在時には旅行や出張でブータン国内のほぼ全国を廻り、また休日を利用してティンブー周辺の日帰り山行を初めとして数回の数日間のトレッキングにも行き、ブータンを歩き廻った。(もちろんブータンの環境の改善のための仕事は、JICA の SV の活動として十二分に済ませた。)そして2年間の滞在生活で改めてブータンの奥深い魅力に魅せられた。

帰国後、再度 JICA でブータン行の機会があり、広島のみならず家族に迷惑をかけることを悩みながらも、自分の人生、期待されていること、出来ること、やりたいこと、をするのも良いじゃないかと思いきり、年齢制限 (JICA での派遣は 70 歳まで) ぎりぎりではあったが再度 JICA の SV としてブータン行を決意し、再びブータンで 2018 年 1 月から 2020 年 1 月までの2年間の予定で、日本では非日常なブータンの日常を過ごすことにした。

しかしながら、再赴任して半年たった 2018 年 6 月 30 日、突如として左腕手と左顔面に麻痺を感じティンブー病院に緊急入院することになった。入院はしたもの日本の日本と違って精密な検査はできなかった。医師の

診断は一過性脳虚血発作で心配はない、とのことであった。JICA ブータン事務所の健康管理員は帰国して精密検査を受けることを勧めたが、一旦帰国したら再赴任が出来なくなる懸念があるので帰国を拒否した。もしも検査が必要ならタイのバンコクに行くということで落ち着いた。しかしそうは問屋が卸さなかった。健康管理員から JICA 本部への連絡によって、本部は緊急帰国の措置を取り、チャーター機の手配がなされていた。7月2日、チャーター機はバンコクからパロ空港に到着した。左腕手と左顔面の軽い痺れのみで他には違和感がないので歩き回っているにもかかわらず、私は重病人扱いされてティンブー病院からパロ空港までは医師と看護師の付き添いで救急車の旅。そして無情にも嫌がる私を載せてチャーター機は日本に向けて飛び立った。機内は医師と看護師2人と操縦士、副操縦士と患者？の私の6人というメンバーで、バンコク、台北で給油しながら羽田に緊急帰国した。もちろん羽田空港から病院までも患者輸送用のマイクロバスと車いすであった。重病患者かVIPか出入国の手続きも一切自分ではしなかった。

緊急帰国して精密検査の結果、軽い脳梗塞との診断であった。退院後は毎日薬の服用の必要はあるものの海外生活も運動もすべて制限なしという、ありがたい言葉を医者から頂戴したが、JICAは再赴任の許可を出さず、しばらくの間悶々とした生活を過ごしながら現在に至っている。

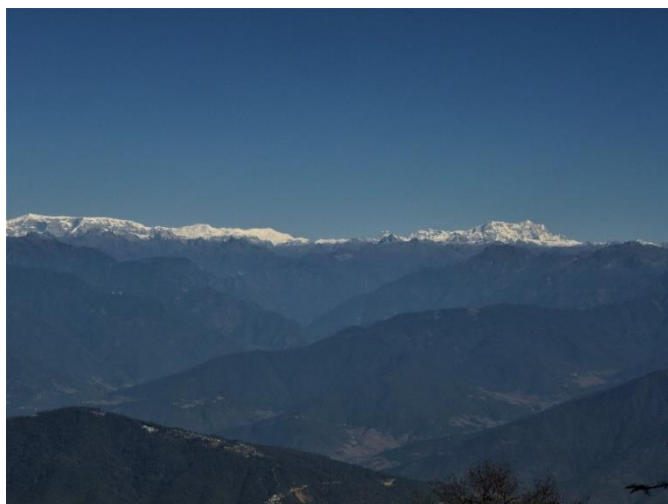
ブータンに住んでブータンに魅せられた者として、ブータンの現状や山やトレッキングなどを紹介して、少しでもブータンの魅力を皆さんに広め分かっていたくために、広島山岳会の会報に寄稿した 2015～2017年の間滞在した「ブータン王国滞在記」を連盟の会報もみじにも寄稿することにした。



ブータン王国の位置



ブータン王国タシチョ・ゾン（中央政府庁舎）



ブータンヒマラヤ

### 絶対にブータンに行ってやる！

秘境ブータン。神秘的な国ブータン。この言葉の響きは私にとって居ても立ってもいられないほどの魅力を掻き立てる。いつかは是非行きたいと思いつつも、現職時代は仕事が忙しく長い休日など取れる訳がなく、これまで広島ブータン共会のメンバーや広島山岳会のメンバーが訪問するのを横目で見ながら羨ましく思っていた。

何とかブータンに行く方法を考えている時に思い至ったのが JICA での派遣である。「よし！定年退職後は JICA の SV としてブータンに行ってやろう。」「これなら、ただ短期間行くだけでなく暫くは住めるぞ！」「幸いにもこれまで現職時代に身に着けた環境関係の知識と技術がある。私のこのキャリアならまず間違いなく行けるだろう。」と思ったが、種々の事情で



結局定年退職後の 2 年間は関連の公益財団法人に勤めることとなり、悶々とした日々を送ることとなった。

このままではブータンに行けなくなる。そこで思い切って 4 年の契約を 2 年で打ち切り高給 (?) と安定した地位 (?) を捨てて JICA の SV でブータン行を希望した。しかし、世の中そんなに甘い物じゃない。JICA からの電話「ブータンは希望者が多いので、選考漏れになる可能性があります。モンゴルに行かれますか？」こちらの答えは当然「ブータンに行きたいのです。モンゴルではありません。」何のために JICA に申し込んだと思っとるんじゃ！しかし、こちらの思いを見透かされたのか、結局その時は選考漏れでブータン行は、おじゃん。そりゃそうだ。ただブータンに行きたいから申し込んだだなんて。開発途上国の発展のために使命感を持って希望した人に失礼だ！（そんな奇特な人はほとんどいないけれど・・・）「なんで？これからどうしてやろうか？」。すると暫くしてまた JICA から電話「ブータンは選考漏れで、モンゴルは辞退されましたが、マーシャル諸島共和国はどうですか？」「えっ！」ブータンは駄目だけど、とにかく何処かに行って欲しいの？2 回目の他国への誘い？「う～ん。2 回目の誘いか。ここでまた断ったら JICA でのブータン行はこの先、まずなくなるな！」という事でマーシャル行きを承諾した。そんな訳で 2011 年 9 月から 2 年と 3 か月の間（しつこく頼まれて 3 か月間任期を延長した。）、山が全くない平均標高 1.8 m の太平洋のど真ん中の赤道直下の暑いサンゴ礁の島、マーシャルに住み、廃棄物管理の仕事で、自分自身で山を造り、マーシャルの最高標高をごみの山によって日々更新する生活となった。



真っ青な空と海と白砂のマーシャル



マーシャルで造った山

そんなこんなで、マーシャルでの満期奉公からさらに 3 か月のサービス奉公までして 2013 年 12 月に帰国した。よし！これで次にブータン行を申し込んだら絶対に駄目だとは言わさないぞ！

それからの 1 年間は申し込みから派遣前の研修などの準備期間として過ごす予定であったが、残念なことに帰国直後に会員や岳友の皆さんの記憶に残っている不幸な事故が起こり、その後の 1 年間はブータンに行くための種々の手続きや準備と並行して、思い残すことの無いよう彼のために動きまくった。

ブータン行は 4 月に JICA に申し込んで 6 月に 2 次選考。2 次選考の面接での JICA 担当者「なぜ今回の申し込みもブータンだけですか？」（JICA の規定では 2 か国を同時に申し込める。）私の答えは「ブータンに行きたいからです。ブータンに行くために、前回マーシャルに行き 2 年 3 か月間活動しました。その時の私の活動成果報告書を読んでもらえば、私のスキルがお分かりと思います。今回は選考漏れになるとは思っていません。（落とせるんなら落としてみ～や！！）」という大はったりで、プレッシャーかけまくりの面接で、8 月に晴れて 4 年越しでブータン行 OK の結果を受け取った。よっしゃー！これで念願のブータンに行ける。

### ブータンへの旅立ち

そんな訳でやっと念願のブータンに行けることになった。名越の追悼集を創りながらブータン行の準備を始めた。JICA での海外派遣は 2 回目になるので、前回同様の手続きで特に困ることも無く順調に進めた。

問題は親父の事と、二人の姉にまた海外に行くことをどう伝えるかだ。親父については、私がマーシャルに赴任するまでは廿日市の自宅で面倒を見ていたが、マーシャル赴任直後にケアマネジャーさんが「お嫁さん一人で面倒を見るのは大変だから特別養護老人ホームに入れるようにしてあげましょう。」と親切にも特養に入るように骨を折ってくれたので、そのまま特養生活を続けている。しかし、マーシャルから帰って4か月したところに急に体調を崩し、今は寝たきりで、ほとんど意識がない状態になっている。再度の海外赴任をどう伝えるか？このままでいつまで持ちこたえられるか？自分の親父の面倒を家内に任せて、自分勝手にさっさと行って良いのだろうか？そんなこんな葛藤を繰り返しながら、また二人の姉が当然言うであろう「親を放ったらかしにして！」の姿が目につく。

いまさら辞退するわけにも、諦めるわけにもいかない、どうする？という状況の中で、最後は家内の「今、行かないと行けなくなるよ。お父さんの面倒はマーシャルの時と同じように私が見るから、行っといで！」の言葉に後押しされてブータン行きを決断した。家内に感謝感謝である。お母さんいつもありがとうございます。

最終的には親父が出発の1週間前、年末の12月30日にあの世に旅立ち、慌ただしく葬儀を済ませた。既に巷は年末年始休暇に入っているため、JICAとも連絡が取れず出発を延期することが不可能な状況であった。そこでやむなく四十九日の法事には一旦帰ってくることにして、2015年1月5日に正月気分も抜けきらない巷をあとに、葬儀後のバタバタの中でブータンに向けて羽田空港を出発した。

(次号に続く)

## 8. 岳連短信

### 1. 寄贈御礼

三原山の会『筆影』No. 478 (1月号)

福山山岳会『会報』R2. 1月号

広島山岳会『山嶺』第853号 (R元. 12月)

## 2. 1~2月の行事案内

(集合時間・場所等の詳細は当連盟ホームページの「岳連カレンダー」のページを開き各行事をクリックすると確認できます。不明のものについては事務局にお尋ねください。)

1/18 山口岳連 70 周年記念講演会・祝賀会 (宇部市)

1/22 岳連例会山行 (小室井山)

1/26 県民ハイキング (高尾山~呉娑々宇山)

2/2 岳連例会山行 (十方山)

2/8~9 高体連県新人大会 (もみのき森林公園)

2/16 県民ハイキング (佐木島 大平山)

2/26 岳連例会山行 (野貝原山・折敷畑山)

2/29~3/1 積雪期レスキュー研修会 (県民の森)

### 編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○会員団体会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。



謹賀新年 (1/5 新年互礼登山・宮島駒ヶ林にて)